



「スーホの白い馬」(大塚勇三再話)研究(平成十四年
度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2012-01-27 キーワード: 作成者: 須藤, 正裕 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007185

「スーホの白い馬」(大塚勇三再話)研究

国語教育学研究室 九〇七三 須藤 正裕

「スーホの白い馬」(昭和四九年度版〜現在の光村図書)には、多くの先行研究が残されているが、「スーホの白い馬」の前身である「白い馬」(昭和四〇〜四八年度版の光村図書)や、これら大塚勇三氏による再話の原形であるモンゴルの民話「馬頭琴」、さらに「スーホの白い馬」・「白い馬」のそれぞれの絵本を含めて分析を行っているものはない。そこで、私は、「スーホの白い馬」をこれらと比較し、「スーホの白い馬」を総合的に分析した。

絵本との比較から、「スーホの白い馬」での〈スーホ〉と〈白馬〉のお互いを思う気持ちは、それぞれの行動から読み取る必要があることがわかり、「白い馬」との比較から、「スーホの白い馬」では「白い馬」以上に〈スーホ〉と〈白馬〉の呼応が豊かに表現されていることがわかった。

さらに「馬頭琴」との比較から、〈スーホ〉や民衆の〈とのさま〉への怒りや〈白馬〉を失った悲しみの大きさを再認識した。これらのことから、〈とのさま〉に対する抵抗という感情は〈スーホ〉や民衆に存在すると考えられるが、民話の持つ口承文芸という性格上、確かな形としては作品に表現されていない。これを授業で取り上げるか否かは教師によると考えられるが、主題にも関係してくるため、取り上げるのであれば児童に対して当時の民衆の社会的生活を説明する必要があると考える。